



新年が明けたと思ったらすでに2月となり、町のあちこちで梅の花が開花し春がもうそこまで来ているようです。いろいろな理由で休刊していましたが『キッコーマン総合病院整形外科NEWS』を本年から再開することになりました。整形外科分野のトピックや当院での試み等を掲載した楽しいNEWSをお送りしたいと思います。今年もよろしくお願いたします。

今回のテーマは、リハビリテーション科部長 野内隆治による『足の外科の最近の話題 -変形性足関節症-』です。また、手外科分野は手外科領域の変形骨切りや、粉碎骨折、延長等に利用可能な指用イリザロフ創外固定器のご紹介をいたします。また、昨年4月より神山医師と岡野医師が、前任の小川医師と中谷医師に代わりまして赴任しましたので自己紹介もさせていただきます。

## 今号のトピック

### 足の外科の最近の話題 -変形性足関節症-

リハビリテーション科部長 野内隆治



足関節は荷重関節であるが、股関節や膝関節と比較すると変形性関節症になりやすいと言われていました。変形性足関節症は外傷を契機とする二次性関節症が中心と考えられていましたが、最近の高齢化で外傷歴のない一次性関節症の発症が増加していると言われていました。

日本における一次性的変形性足関節症は、膝と同様に生活様式(正座等)が原因の一つと考えられており、内反型が多い傾向にあります。

膝や股関節では人工関節が良好な結果を得られていますが、足関節は股関節のように安定した球関節ではなく膝のように荷重面が小さくないため、沈み込みやゆるみのため長期成績が安定していません。

関節機能を温存する方法として、骨切りによるアライメントを矯正する方法が行われてきました。関節裂隙の消失に応じた高倉の病期分類で、内側の内果と距骨の関節裂隙が消失するIIIa期と内側の脛骨天蓋と距骨の関節裂隙が消失するIIIb期が関節温存治療可能かの境目とされています。

脛骨天蓋関節軟骨が温存されているとき(IIIa期)に適応される下位脛骨骨切り術(LTO)は、脛骨の天蓋角を矯正する方法で、脛骨天蓋関節軟骨が温存されていない(IIIb期)は長期成績が良くないとされていますが、温存されている場合は10年以上の長期成績が報告されています。

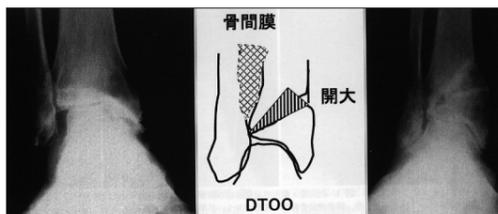
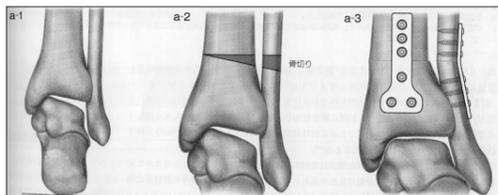
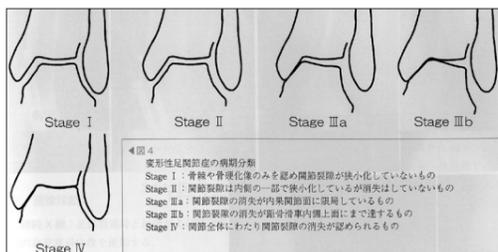
一方、最近関節の安定性を獲得する手術である脛骨遠位斜め骨切り術(DTOO)の報告が増えてきています。関節のアライメントを矯正するというよりは、脛骨を外反させ距骨を外果との間で安定化させることで関節の不安定性をなくし除痛が得られるという方法です。捻挫の後遺症や骨折後で関節不安定性のみられる症例や、脛骨天蓋関節軟骨が温存されていない(IIIb期)症例、外反型にも適応されており短期的には優れた成績が報告されています。しかし下位脛骨骨切り術(LTO)では脛骨天蓋関節軟骨が温存されていない(IIIb期)で10年以上の長期成績がよくないことから、今後の長期成績が注目されています。

末期の変形性関節症には、距腿関節固定術がゴールドスタンダードといわれています。除痛効果にすぐれるだけでな

く、距骨下、ショパール関節などの隣接関節の動きで、走ったり、正座をしたりすることも可能で、長期成績も優れている方法です。関節固定は関節機能を犠牲にする方法ですが、今後も行われて行く手術と思われれます。

人工足関節置換術は、股関節や膝関節の人工関節と比較すると安定した長期成績が得られていない方法です。軟部組織バランスがとりづらく内外反変形の強い例では行えないことや、距骨下関節で疼痛を生じることが問題です。一般的ではないですが人工距骨を用いたりすることで成績の向上が図られています。

変形性足関節症は同じ荷重関節である股関節や、膝関節と比較すると頻度は低く、人工関節の成績が不良です。関節固定術がゴールドスタンダードと言われてきましたが、最近の骨切り術の工夫により関節温存の可能性が開けて来ます。他の専門診と同様に、時代とともに治療法が変遷していますのでお困りの症例がありましたら、一度足の外科の外来にご相談いたします。



## 手の外科トピック

### イリザロフ創外固定器

副院長・整形外科部長 田中利和



皆さんは、手指の骨折で術後の拘縮を考えたときに固定を躊躇することはありますか？骨はついたのだが、関節が曲がらない、伸びない等の問題が残ることがあります。また、骨折後の回旋変形が残り、矯正骨切り術をしようにも、固定をどうしようかと…

当院では、イリザロフ創外固定器を使用しています。Lateral bandと関節の側副靭帯、伸筋腱の走行の邪魔にならないところに1.2mmのワイヤーを入れられれば、写真のように可動域の制限は出ません(写真1)。また、指切断後の問題も延長も可能です(写真2)。延長も回旋転移もお試しあれ。

ITOIKAイリザロフ創外固定器紹介のページ

(<http://www.ito-ika.co.jp/k-a2.html>)

営業部TEL:03-3806-2690

FAX:03-3806-2650

ito@ito-ika.co.jp にご連絡をお願いします。

写真1

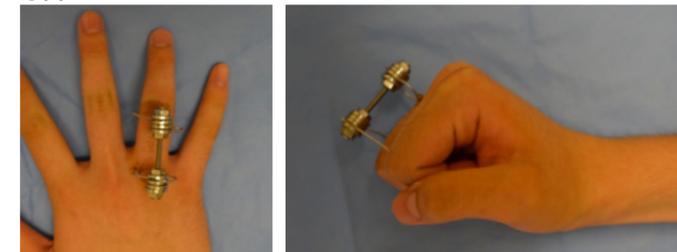
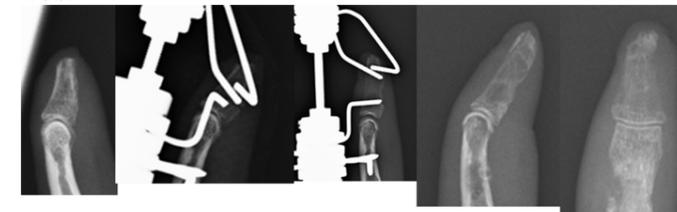


写真2



術前 延長開始 抜去直前 最終側面 最終正面

## 整形外科医師 神山 翔



地域のみなさま、はじめまして。2014年4月よりキッコーマン総合病院整形外科にて勤務しております神山翔(こうやましよう)と申します。2007年に筑波大学を卒業し、昨年までは筑波大学附属病院にて勤務しておりました。茨城県外での勤務は初めてですが、1日も早くみなさまからの信頼を勝ち取れるよう全力を尽くします。

外来では、限られた時間の中でのコミュニケーションからの確に症状を見極め、スムーズな症状の改善が得られるよう努めています。また、骨粗鬆症に対する介入にも力を入れ、骨折予防の観点から治療を行います。

手術は、過去5年間で1200件以上を執刀しています。骨折などの外傷から、股関節や膝関節の人工関節、関節鏡手術、脊椎、手外科など幅広い分野に対応します。

## 編集後記

新病院での診療も今年の8月で丸3年となります。院内の様子をご紹介します。3階には、内科病棟と外科病棟をつなぐ約100mのまっすぐな廊下があります。本来運動のために使用するものではありませんが、ジャマイカの星『ウサイン・ボルト』が走ると9秒58で走る距離を術後の患者さんは歩行器を押して、リハビリのスタッフと話をしながらゆっくりと歩いています。また、内科の糖尿病の患者さんや尿路結石の患者さんたちも行った来たりしています。整形外科の患者さんが『今日は、～往復したよ。』と自信をもって話してくれると、退院間近になったお知らせです。副院長・整形外科部長 田中利和

どんな分野のどんな症状でもまず私にご相談いただければ速やかに対応いたします。外来の日程は、火曜日の午前/午後、水・土曜日の午前となっています。いつでもお気軽にお越しください。どうぞよろしくお願いいたします。

## 整形外科医師 岡野英里子



はじめまして。本年度から、キッコーマン総合病院に赴任しました岡野英里子と申します。整形外科は、全身の骨・筋肉・腱・末梢神経にまつわる病気を担当しますので、骨折から、腰痛、手や足の痛み・しびれ、肩の痛みなど、病気の領域がとても広く、かつお子さんから御高齢の方まで、患者さんの年齢も多岐にわたります。患者さんが何に困って病院に来ていらっしゃるのか、お話を聞きながら、症状と合わせ患者さんに合った治療を考えていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

kikkoman

キッコーマン総合病院

〒278-0005 千葉県野田市宮崎100  
電話04(7123)5911(代) FAX 04(7123)5920  
<http://hospital.kikkoman.co.jp/>